

2011年度

科目名	教育相談の理論と実際			
担当教員	小西 宏幸			
配当	文 3・教育3・人間3		コード	21032
開期	前期	講時	火曜日1限	単位数 2
授業テーマ	心理カウンセリングや心理療法の知識と技法を教育相談場面でいかに活用するかについて			
目的と概要	教育場面では、心理学のさまざまな知見を利用することが有効になります。進路指導や生徒指導、保護者やスクール・カウンセラーとの連携などについて学習します。			
成績評価法	試験(70%)＋平常点(30%) 平常点は、質疑応答、講義への主体的な参加・積極性などを加味します。筆記試験の代わりにレポート提出を求めることもあります。			
テキスト	大芦 治 「教育相談・学校精神保健の基礎知識(第2版)」 ナカニシヤ出版			
参考書	松本俊彦「アディクションとしての自傷」星和書店 宮田敬一「学校におけるブリーフ・セラピー」金剛出版 吉川 悟「システム論からみた学校臨床」金剛出版 マーフィ・ダンカン他「学校で役立つブリーフ・セラピー」金剛出版 アルヴィン 「学校で役立つDSMIV」 誠信書房 など、その都度紹介します。			
履修に当たっての注意・助言/準備学習	教育福祉学部の学生の方へ:教育福祉学部の方は、時間割の都合上、どうしても和田野先生が開講される「教育相談の理論と実際」を履修できない場合に限り、火曜日1限のこちらの授業を受講してください。 基本的に、教職資格に関する科目ですので、受講生の能動的な学習態度を期待します。あくまで、受講生は教員採用試験に臨むことを前提に進行します。3回生以上の配当科目で、しかも応用心理学的知識(特に、臨床心理学)が必要な科目です。「教育心理学」の内容の十分な理解と心理学の基礎知識、例えば、知能や性格、心理査定などの概念は少なくとも学習済みであることが必要です。 また、最近、大きな社会問題である「教育実習公害」とは何かはしっかり下調べしたうえで、履修するか否かを決断してください。			
講義計画				
第1回	教育場面における臨床心理学の位置づけ			
第2回	教育場面と心理アセスメント			
第3回	指導とカウンセリングの異同			
第4回	虐待の問題			
第5回	カウンセリング・マインドとしての対応			
第6回	方法論：応用行動分析			
第7回	方法論：認知行動療法			
第8回	PTSDを例にして：ストレス反応の基礎知識			
第9回	現象論：アディクションの問題			
第10回	現象論：思春期臨床における摂食障害や不安障害			
第11回	対象：不登校と非行（1）			
第12回	対象：不登校と非行（2）			
第13回	対象：発達障害（1）			
第14回	対象：発達障害（2）			
第15回	まとめ			